

第16回「あび北フォーラム」議事録

～テーマ「民生委員の活動と自治会の関係を考えよう」～

開催日： 2023（令和5）年10月15日（日） 13時30分～16時30分
開催場所： 我孫子市北近隣センター（ホール、会議室1-調理室、会議室2-3）
参加者： 我孫子第一地区民生委員児童委員2人
我孫子中央地区民生委員児童委員4人
自治会等： 18自治会等 22人
我孫子市役所市民協働推進課2人（課長、係長）
地域会議事務局等10人（計40人）

配布資料：

- ①フォーラム開催要領
- ②民生委員と自治会アンケート結果（事前アンケートの回収集計）
- ③参考_我孫子市の民生委員児童委員協議会一覧
- ④参考_津市社会福祉協議会地域福祉課令和3年12月10日発行の「生活支援コーディネータ通信（Vol.21）_横のつながりを強化 自治会と民生委員情報交換会」取材記事

1. 開会挨拶（要旨）

○事務局長

・第12と13回のフォーラムでは、地域社会を支える“社協”と“自治会”の連携をテーマに情報交換を行ったが、“民生委員（児童委員）”との連携も必要なので、民生委員との顔合わせを兼ね、今回のテーマにした。

“民生委員児童委員”との連携がとれていない自治会は本日を機に連携してもらい、既に繋がっているところはより一層の繋がりを持ち自治会の活動に活かしてもらいたい。

○市民協働推進課課長

・民生委員児童委員の役割を確認し、連携をより一層深めていく機会にしてもらいたい。

2. 自治会へのアンケート結果報告（民生委員と自治会の関係）

事務局長より、配布資料②により事前アンケートの回収集計結果の報告があった。

3. 民生委員の活動紹介

①ビデオで活動紹介

- 「あなたのまちの民生委員・児童委員」（ビデオ）
- ボランティアで報酬なし、担い手不足の「民生委員」に求められる新たな仕組み RKB 毎日放送 NEWS（ビデオ）

②民生委員の方からの活動紹介

我孫子第一地区民生委員児童委員協議会から活動紹介があった。

お話しの詳細は「【別紙】民生委員の方からの活動紹介（詳細）」を参照。

●紹介項目は以下。

- 役職
- 活動
- 我孫子第一地区民生委員児童委員協議会について

- 自分の対象世帯数について ■委員としての13年間の活動内容について

- 自治会との連携協力のことについて
- 委員として7年目になる活動内容について
- 独居老人に外部との繋がりを勧める活動での悩み
- 自治会との連携協力について

4. グループ討議概要

3グループにわかれ、グループ討議を行った。
各グループの討議概要は、「【別紙】グループ討論概要」を参照。

5. まとめ

各グループから討論模様を報告してもらった。

6. 連絡事項

事務局より、次回（第17回）の開催予定日についてアナウンスがあった。
【次回開催予定日：2024年（令和6年）2月18日（日） 13：30～】

7. 閉会宣言

事務局より閉会宣言が行われ、閉会した、

以上

【別紙】 民生委員の方からの活動紹介（詳細）

○藪下敏 氏（我孫子第一地区民生委員児童委員協議会所属）

＜役職＞ 専門里親、社会的困窮家庭の支援、東葛飾市民後見人の会々員、
引きこもり当事者＆家族へのアウトリーチ相談員

＜活動＞

ひきこもりまったりサロン開催、ひきこもり家族会運営、相談会開催、後見人

＜我孫子第一地区民生委員児童委員協議会について＞

定員 21 名のところ現在は 19 名。

我孫子市では 75 歳定年だが、後任が見つからないと継続も有り。

委員一人当りの対象世帯数は 250～400 世帯。

＜自分の対象世帯数について＞

自分は 260 世帯。

戸建てが多く住民は 600 名。内 65 歳以上 288 名、75 歳以上 203 名。⇒2/3 が後期高齢者。

2 年後には 80 歳以上が 300 名近くになる。

＜委員としての 13 年間の活動内容について＞

・相談支援活動・・・

子供や孫、高齢者（これが一番多い）に関する事、自分自身のこと、自分の兄弟、近所の認知症の方の支援についての相談、知人のこと、骨折したがどうしたら良いかや、生活全般の悩みやゴミ、街路地、家族のこと、福祉に関する心配事や福祉用具について等々、相談支援内容は広範であり、相談を受けて専門機関に繋げるところは繋げる活動をしている。

傾聴だけの活動もある。（伴侶を亡くした方の喪失感情を時間をかけて和らげる傾聴など）

・安否確認活動・・・

例えば、独居の認知症の方が迷子になり警察に保護された時の迎えや確認への対応から認知症の方が道路のまん中を歩いていて危険なので保護して欲しい、火の始末の確認依頼など安否確認といっても色々な内容がある。

・実態調査活動・・・

市の広報に出ている高齢者の実態調査。調査は 5 月～10 月に行う。

・その他に・・・

歳末助け合い、見舞金のこと、あんしんカードの配布などにも携わっている。

これらは自治会で行っているところも多い。

その他に、民児協定例会（月 1 回）、県・市の研修会、第一地区民児協研修会（月 1 回）、行政や関係機関・団体の会議に参加している。

自治会の関係では、担当地区の自治会総会に参加し地域の実態を話しながら自治会への協力を呼び掛けている。自治会の防災委員会委員もしており、防災訓練にも参加している。

また、民生委員として北地区社協の行事、社協のバザー、小中学校の校長との情報交換会、なんでも相談室の地域ケア会議（年 1 回）、自分が受け持っているケース会議、ケースカンファレンスに参加している。

さらに、児童扶養手当の資料作成、社協の生活福祉資金の借り入れの証明書の作成、民児協の会報誌の委員なども行っている。

＜自治会との連携協力のことについて＞

・自分の地域だけではなく高齢者が多くなってきており、地域の方の協力は不可欠。

相談支援が必要な方が民生委員児童委員を介して必要な専門機関に繋がるよう、地域として自治会と民生委員児童委員が協力してやっていければと思う。

○中島百合子 氏（我孫子第一地区民生委員児童委員協議会所属）

<委員として7年目になる活動内容について>

・担当地区について・・・

担当はマンションで我孫子ビレッジの1～3号棟、全部高層マンション。

高齢者は322名。我孫子市の65歳以上の高齢化率38%に対し、担当地区は63.3%。

80歳以上は130人で高齢者世帯の4割が80歳以上の世帯。

独居も70人で高齢者全体の21.7%。年々増えている。

・相談支援活動・・・

（傾聴活動の実際）

伴侶を亡くした方の中には心が疲弊している方もいて、どう声を掛けていいのか困ってしまうところがある。

最初に伺った際は『結構です』と言われることがある。そういう時は、自治会の集まりに参加したり防災集会に顔を出させてもらうなどを繰り返すことで、前は『結構です』と言っていた方が自身の年齢が上がってきて不安に思うこともあるのだと思うが（玄関の扉を）開けてくれるようになり、次第に『お世話になります』とか声を掛けてくれるようになります。そこまでの関係が築けたら、久々の訪問でも前回訪問からの変化（例えば認知症状の悪化）に気づくことがあり、必要な支援に繋ぐこともできるようになる。

・高齢者の孤独死・ひきこもり・子供の貧困問題への活動・・・

高齢者の一人暮らしが増えていて、孤独死も7年で3件関わった。

外部と繋がりが少しでもある方は変化を察知してもらえるが、そうでない方は変化を察知してもらうことが難しい。

高齢者の孤独死問題の他、長年ひきこもる子供とそれを支える高齢の親世帯の8050・7040問題、ワーキングプアと子供の貧困問題がある。

自分は“フードパントリー”活動に参加し、生活困窮者への応援をしている。

“フードパントリー”はLINEでの案内後、たった1時間で予約が埋まってしまう。

その他、“こども食堂”活動にも参加。こちらは困窮している家族に限定していないが、参加費200円（大人400円）が必要で、弁当と色々な遊びを提供している。今月はハロウィン、夏休みの時は夜店だったり。“こども食堂”には“フードパントリー”に来る人は来ない。

“こども食堂”は子育てに悩んでいる人同士が繋がる機会としても利用されているが、“フードパントリー”に来る方は（本当に支援のみで）もらったらすぐに帰られる。

<独居老人に外部との繋がりを勧める活動での悩み>

高齢者は金銭的には余裕がある印象だが、年金でかつかつの方もいる。

外との繋がりについては、マンションだから玄関扉を閉めてしまえば他人と関わらなくても良くなってしまいうため外に出ていかない。そのため引きこもりまではいかなくても繋がりが希薄な人が多い。お子さんから連絡ありますか？と聞くと連絡がないと仰るので見守りサービスとかはどうですか？と聞くと不要と言われてしまう。サークルとかに入りお友達を作っては？と勧めてもそういうのは嫌と言われてしまう。夫婦世帯でも、どちらかが認知症になったり施設に入所になったりすることに備えて外部との繋がりを持つことの話に行くが反応は悪い。そうなると次に何て言って訪問すればいいのかというのが今の悩み。

<自治会との連携協力について_地域の繋がりの場の一つである「お祭り」の継承を>

コロナで3年ぐらい夏祭りが中止となった。お祭りは老若男女みんなが参加できる繋がりを持つ機会なので今年は再開したかったが子供会や周辺自治会の反対で断念。

子供会の方が反対するのは子供が少ないので自分たちのやるが多すぎるという理由。

そういう人たちを助ける何かがあれば良いと思う。

睦会というお祭りに特化した団体に所属しているが、最初に睦会を立ち上げた時に、自分たちの子供や孫に故郷と言える地域を作ろうということでみんなで立ち上がって、20人以上いると思うがそれも始めた頃40代だったのが、みんな60代を過ぎて高齢者になってきて、うちは主人が神輿の担当だが、神輿担げるのかな？ちょっと無理かもしれないという状態になってきて。

やはりこれも続けていかないと若い人たちに繋がっていかない。

ぜひ地域行事をもう一度見直してもらって、お年寄りもお子さんも皆が関われるようなことが自治会の中でできればと思う。

子供たちは、結婚したり子供が生まれたら祭りに連れてくる。

地域の祭りは地域の中での自分たちの故郷（居場所）になると思う。

それはお年寄りも一緒。

色々な世代の方が関わっていける街づくりをしていければ、そこに民生委員もそうでない人も関わる、そのような活動をしていきたいと思う。

以上

【別紙】グループ討議概要

3 グループに分かれ、自己紹介のあと意見交換が行われた。
その概要を記載する。

【Aグループ】

民生委員不在の自治会が2つあるという話が出た。

高齢や認知症などでゴミ出しやゴミ集積所のネット準備・片付け当番が難しい方への対応調整について、民生委員から自治会へお願いの話があった。

民生委員の安否確認業務では詐欺の事があり難儀しているという話があった。

児童委員の活動では、子供に関する情報が少ないことがわかった。

民生委員の重要性が高い中ではあるが、次の担い手が充足できないという問題があることがわかった。

今回のフォーラムで、改めて民生委員について知ることができて良かったの発言もあった。

出席の方々は、民生委員児童委員の方と連携できるところは今後さらに取り組みを繋いでいけるようにしていきたいと思われたのではないのでしょうか。

自治会での活動に参考になる意見交換ができたと思う。

【Bグループ】

共通して自治会と民生委員は連携を図ったほうが良いという認識が深まった。

連携を深めるため、自治会の総会に担当の民生委員に出席してもらい情報共有を行う、あるいは役員会との定例会合を開くなどの話しがあった。

また、防災会の活動の一つである高齢者等の避難行動要支援者の支援についても民生委員との連携を深めていきたいという話があった。

民生委員がいるのかどうかすらなかがわからない自治会があったが、

今回のフォーラムで、高齢者のことや児童福祉の関係のことは自治会で悩まずに民生委員に繋げていくことが必要だということを再確認できたことが良かった。

自治会の方でも今日の話を持ち帰り、役員会総会の方で役立てていくという話になった。

【Cグループ】

民生委員との連携が出来ている。特に防災会で連携が出来ている。

他のグループでも報告があったが、児童の情報が民生委員にも入って来ないとの話があった。

自治会と繋がっていると情報が取れるのではとの話もあった。マンションの方でも子供会が無くなっており子供に関する情報が少なくなっている。

グループでの情報交換に出席した方からは、生委員の仕事は繋がりがああるマンションでもよくわからない、何となくしかわからなかったが、担当されている民生委員のお二人（藪下さん 中島さん）から話を伺って色々な事がわかったし、グループの中で2名民生委員の方がおり、そこで細かい色々な苦労話を聞いて良かったとの声があった。また、自治会はあるが、民生委員と関わりが無く誰が民生委員か自治会長もわからなかったという自治会もあったが、今回繋がりがパイプができ有意義だった。

今回のフォーラムで、民生委員と自治会の繋がりが少しずつ広がることでお互いの活動がしやすくなるという話になった。

以上